

## 北九州市域における尊敬表現法(1)

―あいさつことば「どこへ行く(ている)のか?」(目上へ)の現況―

住 田 幾 子

### はじめに

今年度から、教職課程に「介護等の体験」、いわゆる介護実習が課せられて、大学の2年次に、近隣の老人ホームなどで実習の受け入れをしていただいている。この実習先で、学生たちは、実社会での言語生活においても貴重な体験をしており、実習後に、敬語に関して学生の一人が、つぎのように報告している。

最初は、ホームのお年よりに敬語を使っていたが、敬語を使うとかえってよそよそしい感じがした。むしろ会話に違和感を感じた。敬語を使わないほうが、相手も喜んでくれるだろうと思った。2・3日の間に、自分の祖父のような親近感が生まれ、無意識のうちに敬語を使わなくなっていた。だが、周囲の大人からは、職員でもない実習生が敬語を使わないというのは、お年よりに対する「敬い」の気持ちが欠けているとも受け取られた。

このような、地域の老年層に対する場合には、地域の方言による敬語表現法が効果的にはたらくと考える。しかし、女子学生の世代には、これに対応するための敬語の体系を有する段階には至っていない場合が多く見受けられる。また青年層においては、老年層や中年層が使用している待遇表現法について、違和感を持つという場合もある。

女子学生は、身近な環境の中で、周囲の人々とコミュニケーションをはかるための待遇表現法について、どのように意識して(あるいは無意識にでも)、自己の言語生活をおくっているのだろうか。その敬語行動をとらえるために、北九州市域に在住する女子学生が使ったり聞いたりする、尊敬表現法の一つに注目してみたい。

### 一、「～行く(ている)のか」(尊敬表現法)の諸相

日常の言語生活において、女子学生が、実際に、尊敬表現法をどのように使っているのか。また、たとえ使わないとしても、少なくとも、どのような表現を聞いているのか。

個々の女子学生の身近な環境の中で、

「どこへ行く(ている)のか?」(路上で、偶然に出会った時のあいさつことば、目上<sup>注1</sup>に対して)

が、どのように使われているのかについて、調べてみることにした。

まず、4年生、20名が出身地の実地調査（1999年4月～7月）を行なった。その結果を、表現形式によって分類し、一覧表にまとめた。さらに、この表をもとにして、1年生・2年生の100名にアンケート調査（同年11月）を行なった。

このうち、本稿では、北九州市在住の30名（4年生8名、1・2年生22名）のレポートとアンケート結果をもとにして、当地域で行なわれている「～行く(ている)のか。」の尊敬表現法について記述していく。

なお、北九州市は、方言区域では、旧来、豊前方言と筑前方言とが接する地域である。また、行政上は、以下に掲げるように7区域に分かれている。が、用例を提示する場合には、各区を五つにまとめて、「門・小・戸・八・若」の略号を付している。

略号	行政区域名	方言区域名	調査者数
門	北九州市門司区	豊前	8名
小	北九州市小倉北区・小倉南区	豊前	5名
戸	北九州市戸畑区	豊前・筑前（「境川」が境界線となる）	2名
八	北九州市八幡東区・八幡西区	筑前	11名
若	北九州市若松区	筑前	4名

調査で得られた文表現には、「どこへ」の部分で、

ドコ ドコニ ドコエ（どこへ） ドチラニ ドチラエ（どちらへ）

ドコカ ドコマデ

などが見え、この部分の表現によっても待遇表現上の使い分けがある。が、本稿では、これらをひとまとめにして「～」で記す。

A-1-1 行く+の・のか

- 1 ～イク ン。 [門・小・戸・八・若]
- 2 ～イク ト（－）。 [門・小・八]
- 3 ～イク ノー。 [門]
- 4 ～イク ンネ。 [門・小]
- 5 ～イク ンカネ（－）。 [門・若]

A-1-2 行く+の+です+か

- 6 ～イクノデス カ。 [門・小]
- 7 ～イクンデス カ。 [門・小・戸・八・若]
- 8 ～イクンス カ。 [門・小]

A-1-3 行く+ます+か

- 9 ～イキマス。 [門]
- 10 ～イキマス カ。 [門]

- B-1-1 行く+ヨル (ている) +の
- 11 ~イキヨル ン。 [門]
- 12 ~イキヨル ト。 [門・八]
- 13 ~イキヨー ト。 [門・小・八]
- 14 ~イキヨツ ト。 [小]
- 15 ~イキヨ ン。 [門・小]
- 16 ~イキヨ ンネ。 [門]
- B-1-2 行く+トル (ている) +の
- 17 ~イットー ン。 [小]
- 18 ~イットツ ト。 [小]
- B-1-3 行く+ヨル+の+です+か
- 19 ~イキヨルンデス カ。 [門・小・戸・八・若]
- 20 ~イキヨーンデス カ。 [若]
- 21 ~イキヨンデス カ。 [門・小・八]
- 22 ~イキヨンス カ。 [門]
- 23 ~イキヨートデス カ。 [八]
- 24 ~イキヨットデス カ。 [小]
- B-1-4 行く+トル+の+です+か
- 25 ~イットルトデス カ。 [小]
- 26 ~イットルンス カ。 [小]
- B-1-5 行く+ヨル+ます+の
- 27 ~イキヨリマス ト。 [八]
- B-2-1 行く+ヨル+ナサル (なざる) +の
- 28 ~イキヨンナサル ト。 [八]
- B-2-2 行く+ヨル+ナサル+の+です+か
- 29 ~イキヨリナサルトデス カ。 [八]
- B-2-3 行く+ヨル+ンシャル (な<sup>注2</sup>ざる) +の
- 30 ~イキヨンシャー ト。 [八]
- 31 ~イキヨツシャー ト。 [八]
- B-2-4 行く+ヨル+ンシャル+の+です+か
- 32 ~イキヨンシャートデス カ。 [八]
- B-2-5 行く+ヨル+ッシャル (せ<sup>注2</sup>らるる) +の
- 33 ~イキヨラッシャル ト。 [八]
- 34 ~イキヨラッシャー ト。 [八]
- B-3-1 行く+テアル (ていらっしゃる) +の+です+か
- 35 ~イッテアルトデス カ。 [八]

B-3-2 行く+テオル (ている) +れる+の+です+か

36 ~イッテオラレルンデス カ。 [門]

B-3-3 行く+テオル+れる+ます+か

37 ~イッテオラレマス カ。 [門]

B-4-1 行く+ている+の+です+か

38 ~イッテイルノデス カ。 [門・小・戸]

39 ~イッテルンデス カ。 [門・小・戸・八・若]

40 ~イッテルンス カ。 [門]

B-4-2 行く+ている+ます+か

41 ~イッテマス カ。 [八]

B-5-1 行く+ていらっしゃる+の+です+か

42 ~イッテラッシャルンデス カ。 [小・戸・八・若]

B-5-2 行く+ていらっしゃる+ます+か

43 ~イッテラッシャイマス カ。 [門]

C-1-1 行く+れる+の+です+か

44 ~イカレルノデス カ。 [門・小]

45 ~イカレルンデス カ。 [門・小・戸・八・若]

C-1-2 行く+れる+ます+か

46 ~イカレマス カ。 [門・小・八・若]

C-2 行く+れる+ヨル+の

47 ~イカレヨル ト。 [八]

C-3 行く+れる+テアル+の+です+か

48 ~イカレテアルトデス カ。 [八]

C-4-1 行く+れる+ている+の+です+か

49 ~イカレテイルノデス カ。 [門・小]

50 ~イカレテイルンデス カ。 [門・戸・八・若]

51 ~イカレテルンデス カ。 [門・小・戸・八]

C-4-2 行く+れる+ている+ます+か

52 ~イカレテマス カ。 [門・戸]

D-1 行く+ンシャル+の

53 ~イキンシャー ト。 [八]

D-2 行く+ッシャル+の+です+か

54 ~イカッシャル ト。 [八]

- E-1 行く+テ (て) +です+か  
 55 ~イッテデス カ。 [八]
- E-2 行く+テ+の+です+か  
 56 ~イッテーンズ カ。 [八]
- F いらっしゃる+の+です+か  
 57 ~イラッシャルノデス カ。 [門]  
 58 ~イラッシャルンデス カ。 [門・小]
- G-1-1 <sup>注3</sup>オイデル (いらっしゃる) +です+か  
 59 ~オイデデス カ。 [門・小]
- G-1-2 オイデル+の+です+か  
 60 ~オイデルンデス カ。 [門]
- G-1-3 オイデル+ます+か  
 61 ~オイデマス カ。 [八]
- G-1-4 オイデル+になる+の+です+か  
 62 ~オイデニナルンデス カ。 [若]
- G-2-1 お+出かける+です+か  
 63 ~オデカケデス カ。 [門・小・戸・八・若]  
 64 オデカケデス カ。 [小・八]
- G-2-2 お+出かける  
 65 オデカケ。 [門]
- G-2-3 お+出かける+になる+ます+か  
 66 ~オデカケニナリマス カ。 [小]
- G-3 お+行く+です+か  
 67 ~オイキデス カ。 [若]
- H どこ・行く+です+か  
 68 ドコイキデス カ。 [八]
- I どちらに・どちらへ  
 69 ドチラニ。 [門]  
 70 ドチラエ。 [小]

以上、方言形式のもの、共通語形式のもの、両者が融合した形式のものなど、多彩な尊敬表現法が、豊かに存在していることがわかる。

## 二、北九州市域における方言の尊敬表現法

行政上のまとまった区域として、ひとまとめに「北九州市域」と呼んでいるが、当地域は、旧来の方言区画によれば、東部が豊前方言域、西部が筑前方言域となっている。今回の調査によると、待遇表現法の行なわれ方については、当市に全域的なものと、旧来の方言区画が生きているものとの両方の存在がうかがえる。このことは北九州市域全体を含んだ方言調査によっても知ることができる。

『山口福岡両県接地域言語地図集』（1976 岡野信子編 梅光女学院大学日本文学会方言研究ゼミナール）では、北九州市域の調査が、北九州市門司区（豊前）で5地点、北九州市小倉南区・小倉北区（豊前）で4地点、北九州市戸畑区（筑前）で1地点、北九州市八幡西区（筑前）で1地点、北九州市若松区（筑前）で4地点、にわたって行なわれている。

この言語地図集の待遇表現に関する調査項目・番号（地図名、老年層図・少年層図の番号も）には、つぎのものがある。

45 言うテジャツタ	35 35' 言うテジャツタ
46 「の」と「が」	(地図なし)
47 立ッテアル	(地図なし)
48 ゴザル	34 34' シャル・ヤイ(ヤ-レ)・ゴザル
49 ンサイ(ンサレ)	33 33' ンサイ(ンサレ)・サイ(サレ)・ンシャイ
50 サイ(サレ)	33 33' ンサイ(ンサレ)・サイ(サレ)・ンシャイ
51 ンシャイ	33 33' ンサイ(ンサレ)・サイ(サレ)・ンシャイ
52 ナハイ(ナハレ)	31 31' ナハイ(ナハレ)
53 ナイ(ナレ)	32 32' ナイ(ナレ)
54 ナッセー	30 30' ナッセー・ナハンセー
55 ナハンセー	30 30' ナッセー・ナハンセー
56 サンセ	(地図なし)
57 シャル	34 34' シャル・ヤイ(ヤ-レ)・ゴザル
58 ヤイ(ヤ-レ)	34 34' シャル・ヤイ(ヤ-レ)・ゴザル

このうち、北九州市域に見られる事象と、その地点数とを一覧表にしてみた。

地図番号	符号化事象	門	小	戸	八	若
32	イキナイ (老)	4	4	1	1	2
	イキナイ (少)	1				1
32	イキナレ (老)	1	6			
31	イキナハイ (老)	1	1			1
31	イキナハレ (老)					1
33	ンサイ (老)		1			
	ンサイ (少)					1
33	ンサレ (老)		1			
35	ユーテジャッタ (老)	1				2
	ユーテヤッタ (老)	1				2
	ユーテヤッタ (少)					1
	ユーチャッタ (老)				1	1
	ユーチャッタ (老)					3
30	オイデナツセ (老)				1	
34	イカッシャル (老)				1	1
34	オキヤクジンガゴザル (少)			1		

地図は老年層図・少年層図とが作成されているが、少年層図では、すでに衰退してしまっているものもある。さらに、各事象の存立状況を見ると、豊前方言域のみのものはなく、豊前・筑前の両方言域にまたがるものと、筑前方言域のみに見られるものがあることがわかる。この様相はまた、今回の調査においても同様に認められる。

### 三、北九州市域に共通する尊敬表現法

第一節に掲げた表現例の中で、「門・小・戸・八・若」の全地域で使われているという結果が得られたものが、6例ある。この6通りの表現を取り出して、「使うとすれば、どのような相手に対して使うのか」というアンケート調査を行なってみた。(回答は21名)以下に、回答の内容を具体的に提示することにしたい。待遇表現法の使用については、個人差があるということの一例ともなろう。また、一方では、やはり使い分けの基準・目安のようなものが存することも示しているのである。

#### (1)～イクン

家族・身内・両親・親・母・祖父母・兄弟・兄・姉・弟・妹

親戚・よく会う親戚・伯父・伯母

近所の人・子供の頃から知っている近所のおばちゃん

友達・よく話す友達・親しい友達・友人・とても親しい友人

同級生・同じ年の人・同年代の人・自分と年令の近い人・同年代の親しい人

それほど仲がよくなくても同じ年の人であれば使う

後輩 (クラブやアルバイト先)

子供 (知り合いの子、またその場で知り合った子にも使う)

年下・自分より年下の人・年下の親しい子

身近で対等な人

目下の人

親しい人・年齢に関係なく、とても親しい人・親しい人には目上の人にも目下の人にも使う

## (2)～イキヨルンデス カ

親戚／先輩・親しい先輩／友達・友人（くだけた表現の一つとして）

近所の方々・近所の人・近所のおじいちゃん、おばあちゃん

目上の人・少し親しい目上の人・目上で親しい人・かなり親しい目上の人・土地っ子で仲がよい目上の人

正式な場、きちんとなさなければいけない場では使わない

初対面の人や、あまり親密でない人には使わない

おじいさん、おばあさん同志の会話で使っている

近所のおばさん、年配の人が話しているのを聞いたことがある

## (3)～イクンデス カ

親戚／先輩・自分と年令の近い先輩・親しい先輩・とても親しい先輩・あまり親しくない先輩／アルバイト先の人／近所の方々・近所の人

初対面の人

年上の人・年令の近い年上の人・親しい年上の人・自分と立場が変わらない年上の人・ある程度親しくしている年上の人

目上の人・ある程度知っているが自分より目上の人・親しい目上の人・ある程度親しくしている目上の人

親しい人・まあまあ親しい人・たいへん親しい人・あまり親しくない人・付き合いが長い人

知り合いではあるが、丁寧語程度の礼儀が必要な人

あいさつ程度ではなく、世間話などもするぐらいの関係

普通に軽く敬語を使う時・気楽な会話の中で使う

## (4)～イッテルンデス カ

親戚／先輩／アルバイト先の人／近所の人

初対面の人

年上の人・親しい年上の人・自分と立場が変わらない年上の人・少し顔見知りの年上・おじいさん、おばあさん、おとしよりなどの年上の人

目上の人・おじいさん、おばあさんより年令が下の目上の人・親しい目上の人・



まあまあ親しい目上の人・ある程度知っているが自分より目上の人・軽く目上の人  
人に  
知り合いだが、それほど親密でない人・あまり親しくない人  
親しい人にも親しくない人にも使う  
年代に区別なく使う  
敬語としては使わず、親や友達などに“おふざけ”で使う  
あらたまった席、場合など、緊張感のある時に使う

(5)～イカレルンデス カ

親戚／先輩／先生／お客さま／アルバイト先の人・店長・オーナー・上司・えらい人  
近所の人・ご近所の方々  
初対面の人・ほとんど面識がない人・まったく面識がない人  
年上の人・顔見知りの年上・年令がずっと上の人・かなり年上の人(60才以上)、  
(おじさん、おばさん)・高齢者・お年より  
目上の人・かなり目上の方・親しい目上の方・やや親しい目上の人・あまり親しくない  
目上の人  
同い年でも、知り合って間もないと使う  
やや親しい人・あまり親しくない人・付き合いが長くない人・「イクンデスカ」より  
は親しくない人  
敬意をはらっている方・尊敬している人  
気を使わなければいけない人  
きちんとしなければいけない場で使う

(6)～オデカケデス カ

先生・近所の人・ご近所の方  
年上の人・あまり面識のないお年より、おじさん、おばさん  
目上の人・かなり目上の人・あまり面識のない目上の人・目上でそれほど付き合いが  
ない人・親しくない目上の人  
あまり親しくない人  
顔見知り程度・あまり面識のない人  
親密であってもなくても使う  
内心、嫌っている場合に使う  
友達や親などに“おふざけ”で使う  
友達に、からかい半分で冗談ほく言う  
遊びで、かしまって友人に対しても使う  
友達、親などに洒落た感じで使う

目上の人に対して使うものだと思うが、あまりにも敬語すぎてなかなか使えない  
母が近所の人に使っている

おばあちゃんが、近所の人に言っているのを聞いたことがある

主婦同志の会話・近所のおばさんの会話で聞く

以上の結果をまとめると、おおまかには、つぎのような使い方の基準が認められる。

- 1 ~イクン … 家族・対等・目下・親
- 2 ~イキヨルンデス カ … 親戚・対等・目上・親・土地っ子
- 3 ~イクンデス カ … 親戚・目上・親・初対面(疎)も
- 4 ~イッテルンデス カ … 親戚・目上・初対面(疎)も・あらたまり
- 5 ~イカレルンデス カ … 親戚・目上・初対面(疎)も・あらたまり・敬意
- 6 ~オデカケデス カ … 目上・疎・皮肉の場合も・なじまない

なお、この調査で、「初対面」という回答があるのは、「あいさつことば」という枠から  
離れて、一般的に、相手に対して「どこへ行くのか?」と尋ねる表現と理解されたもの  
と思う。いずれにしても尊敬表現であると判断して、ここに取り上げた。

おわりに

近ごろは、大学のキャンパスで、女子学生たちの「敬語で失敗した」「敬語に不安を感じ  
ている」という声をよく耳にする。が、若い女子学生たちは、無意識にでもそれぞれの  
身の回りの待遇表現法について、確かに習得しているのである。日常的に、待遇表現法に  
もっと意識的になれば、その場に応じた言語行動ができるものと考ええる。

そのためにも、地方にあっては、方言・共通語の両者の行なわれているさまを、具体的  
でわかりやすいかたちで記述し、提示することも必要であろう。

注1

『北部九州における方言新語研究』(1996 陣内正敬 九州大学出版会)に、「どこへ行っ  
ているのか(親友へ)」「どこへ行っているのか(先生へ)」という「方言調査資料」が揚  
げられている。これは「博多」と「小倉」における老年層から少年層にわたる使用例で、  
今回の私どもの調査のよりどころともなっている。(P130~135)

注2 「ンシャル」「ツシャル」について

藤原与一(『昭和日本語方言の総合的研究 第一巻 方言敬語法の研究』1978 春陽堂)  
によると、「ンサル」は「『ナサル』表現法」の一つであるとし、さらに、

「ンサル」は「ンシャル」にもなったのであろう。(P.400)

とある。さらに、

---

「シャル・サツシャル」のもとには「せらるる・させらるる」であるか。「せらるる」は「シラルル」ともなって、「シラル」が「シャル」となったろう。(P.287)ともある。

注3

「北九州市の暮らしのことば」(1989 岡野信子 『北九州市史民俗編』 北九州市史編さん委員会 P.1005)では、「敬語動詞」の「オイデル」(いらっしゃる)としているが、本稿では、表現形式上、接頭辞「お」がかかっていると考えて、ここに整理して置いている。なお、藤原与一(注2に同じ)にも、

「オイデル」は「オ」を除くと「イデル」であって、これは今日通用のものでない。このような形態の「オイデル」は、「オ+動詞」形式のもの、「オ」尊敬表現法のものではあっても、もはや特殊化した、特定の一尊敬法動詞と受けとめられるものである。(P.132)

とある。

注4 親・疎について

『日本語教育指導参考書17 敬語教育の基本問題(上)』(1990 国立国語研究所)には、日本語の待遇表現を全体としてみれば、ウチ・ソトとウエ・シタとは相乗的であるが、個々の話し手と聞き手とがつくりだす言語場面は、一次的ウチとソトの別を第一の選択とし、ウチの世界での上下・親疎等、ソトの世界での上下・親疎等に支配されていると考えたい。(P.83)

などとある。